

特別支援学級での学び

神戸 濱崎 仁詩

昨年転勤し、特別支援学級を受け持ちました。今年も続投、特別支援学級2年目になります。特別支援学級とそこでの実践を紹介します。また、特別支援の視点ということで、普通学級の子どもたちにも適用できる授業のエッセンスもお伝えできればと思います。

1. 学級紹介

私の学校は教師3人(3学級)で7人の子どもたちを教えています。去年は5人でしたが、新1年が2人入りました。障害の内訳は肢体不自由が2人(3年、4年)、自閉症が2人(1年、4年)、自閉的傾向が1人(3年)、知的障害が1人(3人)、診断なし(多動)が1人(1年)です。クラスの雰囲気は肢体不自由の子どもをはじめ、もともと静かで落ち着いたクラスでした。1年生がよく動き、よく話すため、入学してきたことでかなり変化がありました。その2人が、「友だちと関わって何かしよう」という意識があるからです。それまでにはそういった意識は薄かったです。遊びにしても学習にしても個々で進めていることが多かったのです。友だちと関わりながら学びあっていくという学習が工夫次第で展開できるなと思っているところです。

2. 日常生活指導

毎朝1時間目に特別支援学級に可能な限り全員が集まって、朝の会をしています。その場で目標にしていることは、

関わりを生む

ということです。学級紹介で書いたように工夫しないと個々の活動で終わりやすいクラスなのです。様々な活動を仕組み、子どもを輝かせつつ関わりを生めるように配慮しています。流れを書きます。

①はじまりの歌を歌う。

去年は「はじまるよ」、今年「おはよう元気」という歌を歌っていました。司会の子どもの「歌を歌いましょう。手をつなぎましょう。」のかけ声で手をつなぎ、歌を歌いはじめます。簡単な指遊びもするのですが、中には自分では手指を動かすこともできない子どもがいるので教師がいっしょにやります。「おはよう元気」はお互いに名前を呼び合う場面があり、「名前を覚える」という活動からつながりの一歩になります。歌を歌い終わった後、挨拶をします。なぜ後かというと、歌を先にすることで「切り替えができる」ということです。幼稚園の実習で遊んでいてもピアノがなり始めたらみんな集中し出す場面を見ましたが同じことです。切り替えが苦手な子どもが多い時、「いきなり活動から入る」は有効

かもしれないなと思いました。幼稚園や保育所の実践から学ぶことは多いです。

②スピーチをし、お互いのことを伝えあう。

自分で話せる子どもは自分で、できない子どもは教師が話します。特別支援学級は交流にも行くので本当にお互いのことが分からないのです。教師が代わってでもそれぞれの子どもを伝えるのは大切なことだと思います。そうしているうちに「先生、0さん昨日学童でいっしょに遊んだで。」とお互いのことを知らせてくれるようになります。

③今月の歌を歌う。

それぞれの月の歌を全校で歌います。みんなお気に入りです。音楽の時間だけでは覚えきれないのでいい練習の機会になっています。

④日時、曜日、天気を確認する。

日時を書く、曜日を書く、天気を言う、誰かがどれかできることをします。書けないならカードをはればいから、仕事を作ってやるといいと思います。

⑤予定を確認する。

特別支援学級の子どもたちは見通しをもちにくい子どもが多いです。1日10回以上確認する子どももいます。重要な取り組みです。普通学級でも変更ははやめに伝えたほうがいいと思います。

⑥給食を確認する。

ご飯しか食べられない子どももいます。先に知らせていることで、給食前の衝撃（これ、食べられへんやん！）、その後のパニックを緩和できます。

3. 特別支援の視点 ～1対1の指導の配慮～

個別指導をする時1対1の時がある。様々な注意が考えられますが、大切にしていることの一つは

休んでもいい

ということです。たいていの先生はまじめだから、45分まるつきり授業しようとしています。長く学習させたほうがいいと思うのでしょうか。しかし、特別支援学級の子に45分を学習し続けるレディネスはありません。だから45分をパーツにわけて、だいたい5分ずつで一つの活動になるように組み立てます。5分パーツなら9つの活動です。5分が短いなら10分と15分のパーツ3～4こで組み立てます。そして最初の15分しか集中できていないなら、いくら後のパーツを用意していても笑顔で終わる。そしていっしょに遊ぶ。できない子ども、分からない子どもにも特別支援学級に入級するレベルの子がいると思います。そういった子どもに居残り勉強させるのも一つの手ですが、時間ばかりかけてもあきらかに集中力が低下し、効果があがらない姿を見できました。岸本先生の本にも家庭学習は学年×10分とありますが、教師は授業になると45分集中させようとするわけです。最大限の工夫をしなければなりません。工夫し尽くしたその上で、休ませるというのも一つの方策です。